

第43回こども・子育て会議に係る意見・質問の事前調査票

議事進行の参考にしたいと考えておりますので、意見・質問がある場合は、その内容を下記に記入し、11月11日(月)午前8時30分までに電子メール(宛先: 229-3390@city.tsu.lg.jp)にてお知らせください。

なお、津市こども計画(案)のうち、第3期津市子ども・子育て支援事業計画に係る部分は第5章及び第6章となりますので、子ども・子育て支援法に基づき、当該部分についてご意見等を伺わせていただきます。また、その他の章についてご意見等がございましたら、(イ)にご記入ください。

委員名 大川 将寿

議題

(1) 津市こども計画案について

(ア) 第5章及び第6章(子ども・子育て支援事業計画部分)

☐意見・質問

1) データが非常に分かりにくくまとめてあるが、要因としては「こども園」の扱いかと思う。

津市の政策を見ていると、未だに教育委員会と福祉部において隔たりがあるように見えるが、そうであれば旧来の「幼稚園(こども園へ移行した施設も含む、学校法人立)」と「保育所(こども園へ移行した社会福祉法人立等)」に分け、更に私立、公立、と分ければわかりやすいか？

なぜ、提示いただいたように表示しなかったのか、説明いただきたい。

また、未だ待機児童と言葉が出てくるが、「子ども減少」との整合性を説明いただきたい。

2) 何年も前から、また何度も「評価」についての議論はあるが、未だ「身内だけ」の評価になっている。そろそろ、「市民目線」の外部評価や、「その道のプロ」の外部評価、そして、「こども子育て会議の委員による」外部評価があるべきでないか？ なぜ今回も無いのか、具体的な説明を頂きたい。

「評価」に関しては、いつも市の「自己満足」としか映らない。

3) 全体的に、「公立・私立」のニーズ（実数）と規模（集団規模）のバランスについて、具体的な（抽象的でない説明で）方策が書かれていない。なぜか？

（イ）その他の章

□意見・質問

1) 各表の表示の仕方が、同じ項目でも「%」と「実数」が違う表になっていたり（P79、80 など）するが、シンプルにまとめられると思う。

2) 地区の見込み量（想定利用数）を示すなら、各地区の施設別で実数を出してほしい。各地区の議論も促す資料としてほしい。

3) 教員数（保育士数）の確保が今後の重要なポイントになると思うが、今こそ、公私バランスに向けた話し合いが必要。今のところ、その話し合いを求めているが（私立側より）、行政がそれに応じていない現状がなぜか説明して欲しい。

教育・保育の質に大いに関係することであるため、早急な実施を要望する。

4) 会議での説明は、変更点に絞って、市側の説明は端的に分かりやすく、補助資料を示しお願いしたい。また、抽象的な言葉より具体的な数字（実数）で今後も説明してもらいたい。